

Readings

Exod 32:7 וַיְדַבֵּר יְהוָה אֶל־מֹשֶׁה לֵּדַבֵּר בְּכִי שַׁחַת עַמֶּךָ אֲשֶׁר הֵעֵלִית מֵאֶרֶץ מִצְרָיִם:
Exod 32:8 סָרוּ מִהָר מִן־הַדָּרָךְ אֲשֶׁר צִוִּיתָם עָשׂוּ לָהֶם עֵגֹל מִסַּכָּה וַיִּשְׁתַּחֲווּ־לוֹ וַיִּזְבְּחוּ־לוֹ וַיֹּאמְרוּ אֵלֶּה אֱלֹהֵינוּ יִשְׂרָאֵל אֲשֶׁר הֵעֵלֵנוּ מֵאֶרֶץ מִצְרָיִם:
Exod 32:9 וַיֹּאמֶר יְהוָה אֶל־מֹשֶׁה רְאִיתִי אֶת־הָעָם הַזֶּה וְהִנֵּה עִם־קִשָּׁה־עֲרָף הוּא:
Exod 32:10 וַעֲתָה הִנֵּיחָה לִּי וַיַּחַר־אֲפִי בָהֶם וְאָכַלְתִּים וְאָעִשָּׂה אֶת־ךָ לְגֹי גְדֹל:
Exod 32:11 וַיַּחַל מֹשֶׁה אֶת־פָּנָיו יְהוָה אֱלֹהָיו וַיֹּאמֶר לְמָה יְהוָה יַחַרָּה אֲפָיִךְ בְּעַמֶּךָ אֲשֶׁר הוֹצֵאתָ מֵאֶרֶץ מִצְרָיִם בְּכַח גְּדֹל וּבְיַד חֲזָקָה:
Exod 32:13 זָכַר לְאַבְרָהָם לְיִצְחָק וּלְיִשְׂרָאֵל עַבְדֶּיךָ אֲשֶׁר נִשְׁבַּעְתָּ לָהֶם בְּדַבְרֵךְ וַתְּדַבֵּר אֱלֹהִים אֲרָבָה אֶת־זַרְעֲכֶם כְּכֹכְבֵי שָׁמַיִם וְכָל־הָאָרֶץ הִיא אֶתְּךָ אֲמַרְתִּי אֶתְּךָ לְזַרְעֲכֶם וְנָחֵלוּ לְעַלְמִם:
Exod 32:14 וַיִּנְחַם יְהוָה עַל־הָרָעָה אֲשֶׁר דִּבַּר לַעֲשׂוֹת לְעַמּוֹ: פ

- 1 Tim 1:12 Χάριν ἔχω τῷ ἐνδυναμώσαντί με Χριστῷ Ἰησοῦ κυρίῳ ἡμῶν, ὅτι πιστόν με ἠγήσατο θέμενος εἰς διακονίαν
- 1 Tim 1:13 τὸ πρότερον ὄντα βλάσφημον καὶ διώκτην καὶ ὑβριστήν, ἀλλὰ ἠλεήθην, ὅτι ἀγνοῶν ἐποίησα ἐν ἀπιστίᾳ.
- 1 Tim 1:14 ὑπερεπλεόνασεν δὲ ἡ χάρις τοῦ κυρίου ἡμῶν μετὰ πίστεως καὶ ἀγάπης τῆς ἐν Χριστῷ Ἰησοῦ.
- 1 Tim 1:15 πιστὸς ὁ λόγος καὶ πάσης ἀποδοχῆς ἄξιος, ὅτι Χριστὸς Ἰησοῦς ἦλθεν εἰς τὸν κόσμον ἁμαρτωλοὺς σῶσαι, ὧν πρῶτός εἰμι ἐγώ.
- 1 Tim 1:16 ἀλλὰ διὰ τοῦτο ἠλεήθην, ἵνα ἐν ἐμοὶ πρῶτῳ ἐνδείξῃται Χριστὸς Ἰησοῦς τὴν ἄπασαν μακροθυμίαν πρὸς ὑποτύπωσιν τῶν μελλόντων πιστεῦειν ἐπ' αὐτῷ εἰς ζωὴν αἰώνιον.
- 1 Tim 1:17 Τῷ δὲ βασιλεῖ τῶν αἰώνων, ἀφθάρτῳ ἀοράτῳ μόνῳ θεῷ, τιμὴ καὶ δόξα εἰς τοὺς αἰῶνας τῶν αἰώνων, ἀμήν.
- Luke 15:1 Ἦσαν δὲ αὐτῷ ἐγγίζοντες πάντες οἱ τελῶναι καὶ οἱ ἁμαρτωλοὶ ἀκούειν αὐτοῦ.
- Luke 15:2 καὶ διεγόγγυζον οἱ τε Φαρισαῖοι καὶ οἱ γραμματεῖς λέγοντες ὅτι οὗτος ἁμαρτωλοὺς προσδέχεται καὶ συνεσθίει αὐτοῖς.
- Luke 15:3 Εἶπεν δὲ πρὸς αὐτοὺς τὴν παραβολὴν ταύτην λέγων.
- Luke 15:4 τίς ἄνθρωπος ἐξ ὑμῶν ἔχων ἑκατὸν πρόβατα καὶ ἀπολέσας ἐξ αὐτῶν ἓν οὐ καταλείπει τὰ ἐνενήκοντα ἐννέα ἐν τῇ ἐρήμῳ καὶ πορεύεται ἐπὶ τὸ ἀπολωλὸς ἕως εὔρη αὐτό;
- Luke 15:5 καὶ εὐρὼν ἐπιτίθησιν ἐπὶ τοὺς ὤμους αὐτοῦ χαίρων
- Luke 15:6 καὶ ἐλθὼν εἰς τὸν οἶκον συγκαλεῖ τοὺς φίλους καὶ τοὺς γείτονας λέγων αὐτοῖς· συγχαρήτέ μοι, ὅτι εὔρον τὸ πρόβατόν μου τὸ ἀπολωλός.
- Luke 15:7 λέγω ὑμῖν ὅτι οὕτως χαρὰ ἐν τῷ οὐρανῷ ἔσται ἐπὶ ἐνὶ ἁμαρτωλῷ μετανοοῦντι ἢ ἐπὶ ἐνενήκοντα ἐννέα δικαίοις οἵτινες οὐ χρεῖαν ἔχουσιν μετανοίας.
- Luke 15:8 Ἡ τίς γυνὴ δραχμὰς ἔχουσα δέκα ἐὰν ἀπολέσῃ δραχμὴν μίαν, οὐχὶ ἄπτει λύχνον καὶ σαροῖ τὴν οἰκίαν καὶ ζητεῖ ἐπιμελῶς ἕως οὗ εὔρη;
- Luke 15:9 καὶ εὐροῦσα συγκαλεῖ τὰς φίλας καὶ γείτονας λέγουσα· συγχαρήτέ μοι, ὅτι εὔρον τὴν δραχμὴν ἣν ἀπώλεσα.
- Luke 15:10 οὕτως, λέγω ὑμῖν, γίνεται χαρὰ ἐνώπιον τῶν ἀγγέλων τοῦ θεοῦ ἐπὶ ἐνὶ ἁμαρτωλῷ μετανοοῦντι.

Comments

- 今日は年間24主日で福音書のテーマは回心である。毎年この季節はユダヤ教では新年(ראש השנה ローシュ ハッシュシャナー)、大贖罪日(יום כפור ヨーム キップール)、仮庵祭り(סוכות スコット)という盛大な秋の祭りにあたる¹。福音朗読ではルカ文書固有である「見失われた一匹の羊」、「失われた銀貨」、そして「放蕩息子²」のたとえがとられている。これら三つのたとえ話の中で訳された「失った」「失われた」「放蕩」は、翻訳は異なるが原文はどれも同じἀπολλυμι「滅びる」が使われている。このἀπολλυμι「滅びる」は人がみことばから外れ、神から離れた状態を表現している。最近見かけなくなった、どこかに失くしてしまった状態ではなく、「羊」「銀貨」「息子」たちは明らかに滅びの中に入り込んでいるのだ。しかし、多くの羊を放っておいていなくなった一匹の羊を探しに行く羊飼いはいない。置いていった99匹の羊が危険に晒されるからである。散財して帰ってきた息子を喜ぶ父親には明らかな違和感がある。遺産を使い果たして息子が戻ってきて仮に赦したとしても、それに見合う償いは明記されていないではないか。何より、正しい生活を送ってきた兄が、財産を使い果たして無責任にも戻ってきた弟と自分の待遇を比べて、父親は不公平だという不満は当然に聞こえる³。
- この疑問を理解するために典礼は、第一朗読に出32:7-14を選んだ。荒れ野の旅上にあるイスラエルの民が、契約を結んだシナイ山で偶像礼拝を禁止されたにも関わらず(出20:3-7)、苦難に直面した途端に金の子牛という偶像の周りを踊って拜んでいた(出32:1-6)。神は炎を上げるかのように怒り狂い、背信のイスラエルを次のように表現している。「わたしはこの民を見て来たが、実にかたくなな民である(出32:9)。」この「かたくなな民 אִמְ-קֶשֶׁ-אוֹרֵף アム-ケシェ-オーレフ」にまず注意したい。「かたくな」の直訳は「首(うなじ)が固い」となるからだ。なぜ神は「首が固い」というのか。イスラエルが神の前に頭を低く下げられない高慢な民であることを「うなじが固い」と表現したからだ。これが主に選ばれた民であるイスラエルの本質的特徴(!)だと聖書が容赦なく表現するのは驚きだ。「道を外れ(8節)」るイスラエルの民、金の子牛にはひれ伏しても主の前に頭を垂れない「かたくな」イスラエルの姿が福音朗読で「見失われた」「放蕩」と訳された「滅びる ἀπολλυμι」と重なってくる。
- そして神の「怒りは彼ら(「かたくな」イスラエル)に対して燃え上がっている(10節)」が、そこにモーセが割って入る。怒り狂う神をなだめ(11節)、アブラハムに誓いエジプトで行った救いの約束を神に思い起こさせる(12節)。怒り狂う神にとりなしをするモーセは典型的な預言者だ(cf. 創18:17以下, イザ64:8, ハバ3:2)。モーセによる説得は成功し、下す災いを主は「思い直された אָנַחְתִּי ヴァインナーケム(14節)」。この「思い直された」と訳された動詞は「憐れむ אָחַח」という意味である。ではなぜ「憐れむ」を新共同訳は「思い直した」と訳したのだろうか。神が怒りに燃えてイスラエルを滅ぼす理由は、偶像礼拝をする民が主との契約を一方向的に破ったからで、契約に従って神は民を滅ぼされてしかるべきなのである。この事情を熟知している仲介者モーセは、仮にイスラエルが滅びてしまえば、「天の星のように、海辺の砂のように子孫を増やす」という先祖アブラハムとの契約(創17)も同時に破綻する。そこで民を滅ぼせば先祖アブラハムとの約束はどうなるのか、民を滅ぼすことではなく「約束したこの土地に」「天の星のように」増やし、そして生かすことが神の本分ではないのかと反論する。すると、怒りで自分を忘れた神が自らの本性を思い出す。契約に従って滅ぼす権利があるにも関わらず、その権利を自ら放棄して民を滅ぼすことを神はやめているのである。この主の矛盾した不合理な

¹ 月の満ち欠けに従うので2022年のユダヤ暦ではそれぞれ、ローシュ ハッシュシャナー9/26, ヨーム キップール10/5, スコット10/10。なおヨーム キップールは特に罪からの立ち帰りを求める日である。

² オリエンズ宗教研究所『聖書と典礼』2022年9月11日C年年間24主日では朗読箇所が長いためにルカ15:11-32を省いている。

³ 同箇所をキリスト教教父らが様々な解釈を展開して興味深い(Arthur A. Just JR., "Luke", 'Ancient Christian Commentary on Scripture, New Testament III', Inter Varisity Prtess, 2003., p. 243-251)。

行いが「思い直した」と訳されている。福音朗読のたとえの羊飼いは神から離れて滅びに至る「一匹の羊」が救われる喜びは、羊が自分の過ちを改心して戻ってきたからではない。一匹の羊のための不合理な行いでいのちを救う羊飼い、銀貨を見つけて友達や近所の女たちを呼び集める女の喜びを強調しながら、財産を使い果たした息子を罰することなく「憐む」不合理な父親に神の姿を重ねている。神が思い直して先に改心することによって、人に改心する道が開かれている。